

沖縄復帰五〇周年記念特別展

公文書でたどる 沖縄の日本復帰



入場無料・予約不要



独立行政法人
国立公文書館
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN

国立公文書館東京本館 一階展示ホール

令和四年四月二三日(土)から六月一九日(日)

午前九時一五分から午後五時

監修 高良倉吉 琉球大学名誉教授

期間中無休

式辞
本日、天皇、皇后
両陛下の御臨席を仰
ぎ、アグニュー・アメ
リカ合衆国大統領
をはじめ内外首脳多
数の代表を拜して、

沖繩は本日は、祖國
のこのときを、過ぐる
おいて尊

を採り平和に生きる
われわれとして、
ここに、重ねて自由
を争り平和に生きる
誓いを新たにすもむ
のであり

開業の推進に努力し、
かなたの沖繩を
つづき、能合
たたくしは
しむに
たたくしは
たたくしは
たたくしは

公文書でたどる 沖繩の日本復帰

令和四年(二〇二二)は、昭和四七年(一九七二)に沖繩が日本に復帰して五〇周年を迎えます。これを記念して、戦後の沖繩の歩みと日本政府の沖繩に関する政策を、当館所蔵資料から描く特別展を開催します。

当館は国の行政機関から移管された歴史公文書等を所蔵しており、その中には、戦後アメリカの統治下におかれた沖繩の援助、復帰に向けた法制度の整備、復帰後の振興開発政策等の日本政府の沖繩に関する政策を示す資料が含まれています。また、復帰を実現した佐藤榮作首相の資料の寄贈を受けています。これらの資料から、沖繩がどのように日本への復帰を果たしたか、また、復帰後の沖繩の歩みがどのようなものだったのかをご紹介します。



佐藤榮作日記

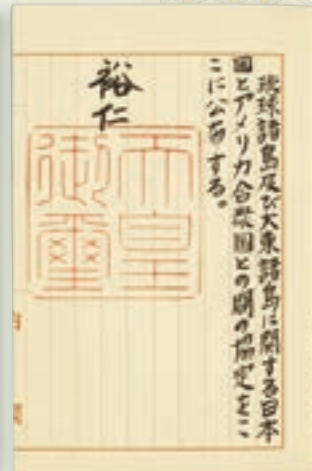
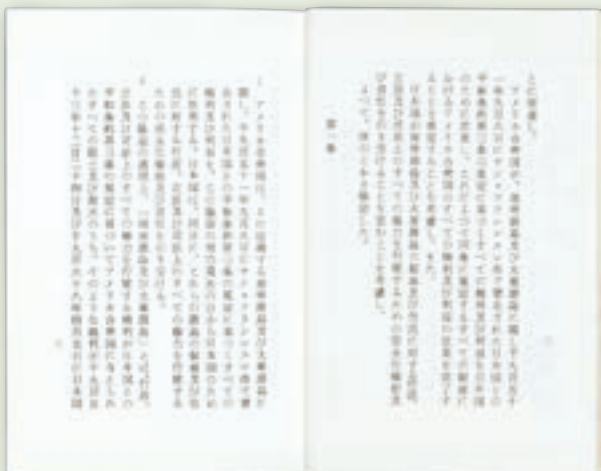
昭和40年(1965)8月、佐藤榮作は戦後の首相として初めて沖繩を訪問しました。この訪問で、「沖繩の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとって戦後が終わっていない」と復帰実現への意欲を示しました。画像は、昭和40年8月19日付の佐藤の日記です。



沖繩国際海洋博覧会

復帰記念3大事業の1つである沖繩国際海洋博覧会は、昭和50年(1975)7月から昭和51年1月にかけて開催されました。会場内には試験的な交通システムであるKRT*が導入されました。画像は、KRTの工事や運行の認可書類に添付されているKRTの写真です。

* Kobe Rapid Transit



琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定

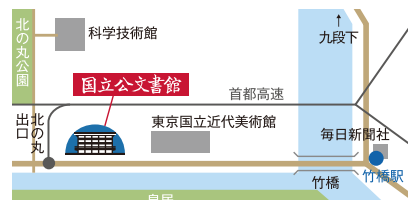
昭和44年(1969)11月の日米首脳会談で1972年中の沖繩の施政権返還について原則的合意が成立し、この合意に基づく日米交渉が行われました。その結果、昭和46年6月に琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定が調印され、昭和47年5月15日にこの協定が発効することで沖繩の日本復帰が実現しました。画像は、同協定の公布原本です。

記録を守る、未来に活かす。



独立行政法人 国立公文書館
@JPNatArchives @JPNatArchives

〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園3-2
TEL:03-3214-0621
<https://www.archives.go.jp/>



アクセス▶東京メトロ東西線竹橋駅下車[1b出口]徒歩5分